

移行期間中の複式学級における外国語活動の授業づくりの考え方《別紙》

1 計画について

- ・移行期間中の高学年の使用教材については、単学級と同じく、「Hi, friends!」の内容と、新教材の「We Can!」の内容を併せて扱う。
- ・児童の興味・関心や実態、中学校との系統的な指導などに留意して、目標や内容の程度（評価規準）時数の増減を考え、各校の年間指導計画を作成する。

2 単元配列の組みかえについて

- ・同じテーマの教材や言語活動につながりのあるものを合わせて単元を構成する。
- ・一方だけの学年の内容に偏らないように、バランスよく扱う。（例えば、H30は第3学年の内容、H31は第4学年の内容だけを扱うことは望ましくない）

3 年間指導計画例の見方

- ・使用教材について・・・新3＝「Let's Try!1」
新4＝「Let's Try!2」
新5＝「We Can!1」
新6＝「We Can!2」
HF1＝「Hi, friends!1」
HF2＝「Hi, friends!2」
- ・単元名について・・・異学年の教材を組み合わせて構成した単元については、共通するテーマや言語活動を単元名としている。
- ・主な表現について・・・単元で扱う言語材料を示している。
- ・単元目標について・・・異学年が同一教材で学習する場合は、これまでの学習歴や発達段階に応じて目標を設定している。
- ・評価規準について・・・現行の学習指導要領に基づいて示している。
- ・配当時数計画について・・・第3・4学年では15時間と35時間、第5・6学年では50時間と70時間で実施する場合の1単元における配当時数を記載している。
時数が「0」の単元は、第3・4学年で15時間、第5・6学年で50時間実施する場合には取り扱わないことを示している。

○2年間でスパイラルな指導を心がけよう

○異学年との交流で児童の自己肯定感を高めよう